

1 教育目標（目指す児童像含む）

- | | |
|----------|---|
| (1) 基本目標 | 人間尊重の精神に基づき、心身の発達に応じて、一人一人の特性や能力を生かし、知・徳・体の調和のとれた児童の育成をする。 |
| (2) 具体目標 | 自ら考え主体的に行動し、心豊かでたくましい児童の育成
かしこく(進んで学ぶ子)、やさしく(思いやりのある子)、たくましく(元気でがんばる子) |

2 学校経営の理念（目指す学校像含む）

常に子供を中心に据え、子供の視点に立ち、どの子にも夢とやる気と自信を育む教育を実践するために、学校・家庭・地域が連携・協力し、子供一人一人の個性や能力を生かす活力あふれる学校、思いやりの心を持ち温かみと潤いのある学校、保護者・地域に開かれた信頼される学校となることを目指す。

3 学校経営の方針（中期的視点） ※地域学校園内で共通する方針は、文頭に○印または該当箇所に下線を付ける。

- | | |
|-----|--|
| (1) | ○基礎・基本の確実な習得と思考力・判断力・表現力等の育成を図るため、分かりやすい授業の実践に努めるとともに適切に個別の指導・支援を行う。 |
| (2) | ○互いを尊重し合う温かな人間関係のもと、認め励ます指導により、児童一人一人の自信や自己有用感を高め、行きたい・居たいのある学校づくりに努める。 |
| (3) | ○運動を通じて体力を養うとともに、健康な生活習慣や望ましい食習慣、安全に配慮した行動力の形成を図り、健康に生活できる心と身体の育成に努める。 |
| (4) | 教職員としての誇りを持ち、自己研鑽に努め、サービスを順守するとともに、重点目標の精選や焦点化を図り、勤務時間を意識した働き方を推進していく。 |
| (5) | ○特色ある学校づくりの推進や、体験活動・読書活動の充実を通して、社会性や豊かな心の育成、目標に向かって折れない心・やり抜く心など心のたくましさの涵養に努める。】 |
| (6) | 積極的な情報の発信・提供や、地域との連携により、開かれた学校づくりに努める。 |
| (7) | ○「すこやかに学ぶ児童像」を設定し、小中学校の連携を図りながら児童生徒への教育の充実に努める。 |

[河内地域学校園教育ビジョン]

すこやか河内 ― 小中一貫教育を通して、子供たちの心身のすこやかな成長を目指します。―

4 今年度の重点目標（短期的視点） ※地域学校園内で共通する目標は、文頭に○印または該当箇所に下線を付ける。

【学 校 運 営】

教職員それぞれが個性や能力を発揮し、同僚性を高めることのできる環境づくりに努めるとともに、目標の精選や焦点化を図り、勤務時間を意識した働き方を推進する。

【学 習 指 導】基礎基本の定着と言語力の育成

○児童の学力の状況を把握し、特別支援教育や主体的・対話的で深い学びの視点を生かした分かりやすい授業の実践により、基礎・基本を確実に習得させるとともに思考力・判断力・表現力等の育成を図る。併せて、全教職員の共通理解のもと、保護者との連携による家庭学習の習慣化に努める。

【児童生徒指導】

○認め励ます指導により自信や自己有用感を高め、道徳科(道徳の時間)や体験活動・読書活動の充実、家庭・地域と連携したあいさつや適切な言葉遣いの励行等を通して、生命や人権を尊重する思いやりの心を育み、いじめや不登校を生まない環境を作るとともに、折れない心や、やり抜く心など、心のたくましさの涵養に努める。

【健康(体力・保健・食・安全)】

○運動に親しもうとする態度や能力を育成するために、指導資料等を活用し、体力の向上に努めるとともに、健康な生活習慣や望ましい食習慣に対する理解を深め、改善を図ることができるよう養護教諭・学校栄養士・家庭と連携した取組を推進する。併せて、安全に関する理解を深め、危険を予測し、自らの命を守り抜くための行動力の育成に努める。

5 自己評価（評価項目のAは市共通、Bは学校独自を示す。）

※「小中一貫教育・地域学校園」に関する方針・重点目標・取組にかかわる内容は、文頭に○印または該当箇所に下線を付ける。

※「主な具体的な取組」の方向性には、A拡充 B継続 C縮小・廃止、を自己評価時に記入する。

項目	評価項目	主な具体的な取組 方向性：A拡充 B継続 C縮小	方向性	評価
学校運営の状況	A1 学校は、活気があり、明るくいきいきとした雰囲気である。 【数値指標】全体アンケート「私は今の学校が好きです」→児童の肯定的回答 90%以上	① 体験的な活動を取り入れたり、教育機器等を有効に活用したりして、児童の学習意欲を高める授業の工夫をする。 ② 学校行事に児童が自主的・主体的に取り組む場面を設定し、教師が適切な指導・支援・助言をする	B	【達成状況】 児童の肯定的回答は 93.3%で、目標値を上回った。 ① 教育機器やデジタル教科書などを積極的に活用したり、体験的な活動を多く取り入れたりして、児童が興味・関心をもって取り組むことができるような授業の展開に努めた。 ② 学校行事ごとに、児童が具体的な自分のめあてを明確にして自主的に取り組めるよう、計画段階から適切な指導、支援がなされるように立案し、全教職員が共通理解のもと実施した。 【次年度の方針】 ① 今後も継続して、効果的な教育機器の活用や体験的な活動の実践を行う。 ② 児童の実態や発達の段階に応じた指導と展開の工夫を進めることで、児童の学習意欲を高めていく。
	A2 教職員は、組織の一員として熱心に教育に当たっている。 【数値指標】全体アンケート「先生方は大切なことを熱心に指導してくれる」→児童の肯定的回答 90%以上	① 学校課題（基礎・基本の定着と<u>言語力の育成</u>）に向け、継続して協働体制による研究を進め、授業力の向上を図る。	B	【達成状況】 児童の肯定的回答は 97.8%で、目標値を上回った。 ① 授業のめあてを提示し、体験的活動や教育機器の活用による「分かる授業」の展開に努めた。 ② 河内学校園共通の「<u>自主学習の手引き</u>」を活用し、それを基に児童と保護者に向けて家庭学習に関する啓発を図った。 【次年度の方針】 単元や各時間のねらいにそった「分かる授業」を展開するため、教材研究を行い指導方法の工夫に努める。また、引き続き、<u>宿題や自主学習等</u>、<u>家庭学習</u>に関する啓発を行う。
	A3 児童は、授業と生活のきまりやマナーを守り、秩序があり安全な学校生活をしている。 【数値指標】全体アンケート「児童は授業と生活のきまりやマナーを守って生活している」→児童の肯定的回答 85%以上	① 集団と個の両面から一人一人の児童の特性を適切に把握し、ふれあいと<u>ルールの確立</u>を目指した学級づくりに努める。 ・「岡本小のよい子の約束」「岡本小のめあて」「<u>すこやか河内学校園のきまり</u>」の指導の充実 ・月毎の児童指導の重点の確認・実践 ・児童指導だよりでの啓発	B	【達成状況】 児童の肯定的回答は 89.6%で、目標値を上回った。 ① 「岡本小の生活のきまり」、「すこやか河内学校園のきまり」を各教室に掲示し学期の始めに意識させるとともに、月毎の児童指導の重点を明示した。教職員が共通理解のもと指導に取り組んできた効果が現れている。 【次年度の方針】 ① 基本的な生活習慣を含め児童指導において方針・基準を明確にし、これまで同様、同一歩調で機会を見逃さず指導する。 ② <u>学級活動や道徳の時間も活用して、児童のよいところを認めながら、規範意識を高めていく。</u> ③ <u>定期的に情報交換を行い、児童の様子や指導について確認し、対応が必要なケースについては協議し策を講じる。</u>

A4 教職員は、分かる授業や児童にきめ細かな指導を行い、学力向上を図っている。 【数値指標】全体アンケート「教職員は分かりやすい授業や一人一人へのきめ細かな指導をしている」→教職員の肯定的回答 90%以上	① 教材研究を十分に行い、明確な課題提示と、振り返りや発問、学び合いや活動により、<u>分かる授業を展開</u>する。 ② 児童の実態に応じたきめ細かな指導をするために、単元や学習内容に応じた学習形態の工夫をする。 ・「パワーアップ朝の学習会」の実施 ・T.Tや少人数での指導 ・かがやきルームの活用	B 【達成状況】 教職員の肯定的回答は 100%で、目標値を大きく上回った。 ① 学年やブロックで連携して ICT 教材を活用したり、よりよい授業が展開できるよう教材研究に努めたりした。 ② 児童の実態把握にもとづき、学力向上加配やかかがやきルームとの連携をしながら、個に応じた指導ができた。 【次年度の方針】 ① 教材や授業に関する情報共有や意見交換を密にし、<u>教材研究や授業準備がより効率的・効果的に行えるよう計画・実施する。</u> ② 単元や学習内容に応じて、少人数指導や習熟度別学習、T.Tによる指導を適宜取り入れ学習形態を工夫する。
A5 教職員は、いじめが許されない行為であること指導している。 【数値指標】全体アンケート A5「学校は、いじめ対策を積極的に公表し、熱心に取り組んでいる。」→保護者の肯定的回答 75%以上	① 普段から安心して相談できる、教職員と児童との関係づくりに努める。 ・いじめに関するアンケート ・<u>教育相談の実施</u> ・<u>「思いやり」や「協力」に関する道徳の授業の公開</u> ・人権週間の設定 ・児童指導だよりの啓発	B 【達成状況】 保護者の肯定的回答は 86.9%で、目標値を大きく上回った。 ① 年2回いじめに関するアンケートと教育相談を実施し、細かな実態把握に基づく具体的な対応や未然防止に努めた。 ② いじめゼロ強調月間におけるいじめゼロ集会の実施や道徳科との連携によりいじめを許さない意識が高まっている。 【次年度の方針】 ① 次年度も、いじめに関するアンケートと教育相談を毎学期実施し、実態把握と未然防止に努める。また、<u>児童が主体となっていじめについて考え、全校で取り組む活動や場を工夫する。</u>さらに、<u>保護者に対し、いじめを防止するための取り組みや指導内容について知らせていく。</u> ② 道徳教育や人権教育の観点から、「きまりやルールを守ること」「思いやりの心」を育てることを重視して指導に当たるとともに、<u>言語環境を整える</u>など、学校全体で取り組む。
A6 日課、授業、学校行事などの教育課程は、適切に実施されている 【数値指標】全体アンケート A6「学校の日課、授業、行事などは、適切に実施されている。」→教職員の肯定的回答 90%以上	昨年度の反省をもとに、日課、授業、学校行事等を適切に実施する。行事終了後に評価を行い、改善策をまとめて次年度の計画を立てる。	B 【達成状況】 学校行事等の改善に努めた結果、教職員の肯定的回答は 100.0%で、目標値を大きく上回った。また、保護者の肯定的回答も 98.0%と高かった。 【次年度の方針】 ① 実施状況や日課変更による影響・効果等について、今年度の取り組みを十分検討し、更によりよい教育課程となるよう日課や行事の見直しを行い、今後も適切に実施されるように努めていく。
A7 学校の公開や情報の積極的な発信・提供が行われ、開かれた学校づくりが進められている。	① 「オープンスクール」を含め学期に2回以上学校公開を実施する。(ギネス活動・音楽集会等も含む) ② 学校だより・学年だより等やホーム	B 【達成状況】 保護者の肯定的回答は 94.4%で、目標値を上回った。 ① 土曜授業(年2回)、全校ギネス、音楽集会(年2回)を公開した。公開日の様子から、本校の教育活動・児童の学校生活への関心の高さがうかがえる。 ② 各種たよりを定期的に発行した。ホームページにも

【数値指標】全体アンケート A7「学校は、学校便りや学校公開などで、積極的に情報を発信・提供している。」 →保護者の肯定的回答 90%以上	ページによる情報の公開・発信をする。 ・学校だより・学年だより・保健だより・食育だより・図書だより:月1回発行 ・HPの更新:1か月に1回以上	行事の様子等を掲載し、学校の様々な情報をタイムリーに発信した。 【次年度の方針】 ① <u>学校公開の時期、内容・方法等について検討し、今後も「開かれた学校づくり」を推進していく。</u> ② <u>今後も各種たよりやホームページによる情報発信を継続し、内容を充実させる。</u>
A8 学校と家庭・地域・企業等との連携・協力を図った地域の学校づくりが推進されている。 【数値指標】全体アンケート A8「学校は、家庭・地域・企業等と連携・協力して、教育活動や学校運営の充実を図っている。」 →保護者の肯定的回答 80%以上	① 街の先生・学校支援ボランティアと連携した授業や活動を計画的に実施する。 ② 昨年度の取組・課題を生かし、岡本小地域協議会を核にした教育活動支援の円滑な実施と有効活用に努め、学校運営の充実を図る。	B 【達成状況】 保護者の肯定的回答は 90.7%で、目標値を大きく上回った。 ① 街の先生・学校支援ボランティア等と連携した授業や活動を計画的に実施した。 ② 「岡本小地域協議会」を年3回開催し、情報共有・協働に努めた。昨年度に引き続き、自治会の協力により「清岡苑」の維持や、教育支援活動が充実してきている。 【次年度の方針】 ① <u>街の先生、学校支援ボランティア等の活動を教育課程に位置づけ、効果的に実施する。</u> ② <u>家庭・地域と連携した取組の様子が見えづらいアンケート結果を踏まえ、より地域へ伝わるよう情報発信を行い、岡本小地域協議会を核にした教育活動支援の円滑な実施と有効活用に努める。</u>
A9 校内は、学習にふさわしい環境となっている。 【数値指標】全体アンケート A9「学校は、荷物や備品が整理整頓されるなど、学習しやすい環境である。」 →保護者の肯定的回答 80%以上	① 清掃の仕方や用具の使い方を教えたり、率先して清掃を行ったりして、清掃指導の充実と施設・設備の維持管理に努める。 ② 学習への意欲・関心が高まるよう、教室環境を整えたり、校内掲示を工夫したりする。	B 【達成状況】 保護者の肯定的回答は 95.4%で、目標値を大きく上回った。 ① 教職員が率先して清掃を行うとともに、日ごろの清掃指導を丁寧に行ってきた。 ② 学習内容や行事に合わせた掲示物を充実させてきた。 【次年度の方針】 ① <u>引き続き日課や行事の見直しを行い、清掃時間を確保する。また、清掃の仕方を具体的に示し、指導を丁寧に行うことで、児童の意識を高める。</u> ② <u>学習への意欲・関心が高まるように掲示物等を工夫する。</u>
A10 学校は、「小中一貫教育・地域学校園」の取組を行っている。 【数値指標】全体アンケートの「小中一貫教育・地域学校園の取組を行っている」 →保護者の肯定的回答 85%以上	① ○地域学校園研修や各部会・教科部会等を定期的に実施し、計画的に推進する。 ② 「<u>小中一貫教育だより</u>」や「学校だより」等による情報発信に努め、保護者や地域への周知を図る。	B 【達成状況】 保護者の肯定的回答は 86.3%で、目標値を上回った。 ① 地域学校園としての取り組みは計画通りに取り組んだ。 ② 教職員と児童の肯定的回答は 95%を上回る達成状況であることから、取り組みの保護者への情報発信が弱かった。 【次年度の方針】 ① <u>学校園での小中一貫教育の取り組みについて連携実践を焦点化し、充実させる。</u> ② <u>関連する活動を「学校だより」や「学年便り」によって保護者や地域に周知できるよう努める。</u>
A11 多様な専門性を有する学校スタッフの活用により、教員の業務が縮減されている。 【数値指標】全体アンケート	① 学校スタッフの業務に応じて、授業参画の機会を設ける。 ② 学校スタッフの専門業務の効率的な遂行とともに、教員業務との相	A 【達成状況】 教職員の肯定的回答は 77.3%で、目標値を下回った。 ① 学校スタッフの専門性を活かした取り組み等を実施することができた。

		の「学校スタッフの活用により、教員の業務が縮減されている」 →教職員の肯定的回答 80%以上	互補完を推進する。		② これまで同様に相互補完を推進したが、役割の明確化は不十分であった。 【次年度の方針】 ① 今後とも、教職員の専門性を活かし、授業参画の機会を設けていく。 ② 今後は、課題を検証しながら効率的な業務の遂行を行う。
		A12 教員は多様な専門性を有する学校スタッフと円滑なコミュニケーションが図れている。 【数値指標】全体アンケートの「教員は学校スタッフと円滑なコミュニケーションが図れている」 →教職員の肯定的回答 80%以上	① 学校スタッフ勤務時間内に打合せ時間を確保するなど、教員と共通理解を図る勤務環境を整える。 ② 学校行事等において役割を分担するなどして、協働して取り組む業務を設定する。	B	【達成状況】 教職員の肯定的回答は 81.8%で目標値を上回った。 ① 学校スタッフとコミュニケーションを図ったが、勤務時間内の打合せ時間確保は困難であった。 ② 運動会などの学校行事等において、全教職員で協働して取り組むことができた。 【次年度の方針】 ① 勤務時間の割振り変更などにより、十分にコミュニケーションが図れるようにしていく。 ② 今後も専門性を活かして、役割分担をするなどして、協働して取り組むようにしていく。
教育活動の状況	生 活	A13 児童は、進んであいさつをしている。 【数値指標】 全体アンケート A10 「児童は時と場に応じたあいさつをしている。」 →保護者の肯定的回答 75%以上	①○毎月のクラスごとのあいさつ運動を継続実施することや、日常の指導を通して、あいさつの定着を推進する。 ・ 児童指導だよりでの啓発 ②○学級活動や道徳の時間において、あいさつの大切さについて指導し、適切な態度が習慣化できるよう指導を継続する。	B	【達成状況】 保護者の肯定的回答は 79.6%で目標を上回った。 ① あいさつ運動や学活・道徳での指導を通して、校内でのあいさつの定着を図ってきた。 ② 登下校時も保護者や地域の方にもあいさつが出来るよう指導してきた。 【次年度の方針】 ① あいさつ運動や学活・道徳での指導の充実を図り、さらなる定着を目指していく。 ② 保護者や地域とも連携したあいさつ運動の展開について、PTAや地域協議会と検討していく。
		A14 児童は、正しい言葉づかいをしている。 【数値指標】 全体アンケート A11 「児童は時と場に応じた言葉づかいをしている。」 →児童の肯定的回答 80%以上	①○「場に応じた言葉遣い」ができるよう指導の充実に努める。 ②○時と場に応じた言葉遣いになるよう、機会を逃さず同歩調で指導する。また、授業等においても具体的に教え、日常化するまで根気強く指導する。	B	【達成状況】 児童の肯定的解答は 85.1%で、目標値を上回った。 ① 教職員共通理解のもと、「場に応じた言葉遣い」の指導に取り組んだ。 ② 授業においても、言葉遣いの指導に取り組んだ。 【次年度の方針】 ① 今後も、誤った言葉遣いは、機会を逃さず同歩調で指導する。 ② 正しい言葉遣いを授業等においても具体的に教え、日常化するまで根気強く指導する。 ・ 職員室への入り方 ・ あいさつ、返事 ・ 敬語の使い方 ・ 授業中の話し方 ・ 児童同士の言葉遣い など
	健康・体力	A15 児童は、進んで運動する習慣を身に付けている。 【数値指標】 全体アンケート A12 「児童は休み時間や放課後などに進んで運動している。」 →児童の肯定的回答 85%以上	① 業間や昼休みには外に出て遊ぶことを推奨する。また、めあてをもって運動に取り組めるように、引き続き各種検定カードを有効活用することで、進んで運動する機会を増やしていく。 ② 元気っ子健康体力チェックや ミニマムの結果を分析して児童の実態に合った運動を体育の授業の中に位置付けたりしていく。	B	【達成状況】 児童の肯定的回答は 92.9%で目標値を上回った。 ① 各種検定カードを活用することで、多くの児童がめあてをもって進んで運動することができた。 ② 元気っ子健康体力チェックやミニマムの結果を分析し、補助・補強運動や柔軟運動を取り入れた。 【次年度の方針】 ① 業間や昼休みには外に出て遊ぶことを推奨する。また、各種検定カードを今後も活用し、目標をもちながら運動する機会を設け、内容の充実を図る。 ② 元気っ子健康体力チェックやミニマムを活用し、児童の実態に合った補助・補強運動を取り入れる。内容については河内学校園でも検討していく。

	A16 児童は、栄養のバランスを考えて食事をしている。 【数値指標】 全体アンケート A13 「児童は、好き嫌がなく給食を食べている。」 →児童の肯定的回答 85%以上	① 食育だよりを定期的に発行するとともに、好き嫌いを減らせるよう、一人一人の状況に応じた指導を行う。 ② 栄養のバランスを意識して生活できるように、各種たより等により啓発し、家庭との連携を図る。	B 【達成状況】 児童の肯定的回答は 91.1%で目標値を上回った。 ① 学校園統一で行われているマナー週間を中心に、偏食や食事マナー等について指導した。食育だよりを定期的に発行し継続指導に努めた。 ② 給食週間での取組やお弁当の日の実施により食に関する意識が高まった。児童・保護者ともに、お弁当の日への関心が高く教育効果を上げている。 【次年度の方針】 ① 食育だよりの充実などにより、「嫌いだけ一口食べてみよう」から、2口、3口とスモールステップでの指導を心がけ、一人一人の状況に応じた指導を継続する。 ② 各家庭で栄養のバランスを意識した食生活が送れるように各種たよりによる啓発活動を行う。
学 習	A17 児童は、進んで学習に取り組んでいる。 【数値指標】 全体アンケート A14 「児童は、授業中に進んで話し合いわかりやすく発言するなど、積極的に学習している。」 →児童の肯定的回答 80%以上	①〇指導目標を明確にし、「分かる授業」のために学習課題の提示方法を工夫したり、学び合い活動の場を意図的に取り入れたりする。 ②〇児童一人一人の定着度を把握し、よさを認めた言葉かけやつまずきに応じた一人一人への支援をする。 ③〇授業中に話し合いの場を意図的に設定し、理由などを含めて発表できるよう、発達の段階に応じて適切に指導する。	B 【達成状況】 児童の肯定的回答は 92.9%で、目標値を大きく上回った。 ① 学校課題に向けて協働体制で取り組んだ。めあてや振り返りの掲示物を作って一連の授業の流れを共通理解した。また全員で授業を公開し合い、よりよい授業を目指して協議を行った。 ② 教師の見取りや自己評価、ノートの確認、小テストなどから形成的評価を行い、一人一人の定着度の把握に努めた。また、学習の成果に対して賞賛したり、児童の実態に応じた課題を与えたりして支援を行った。 ③ 授業中に話し合いの場を設定し、理由などを含めて発表できるよう、発達の段階に応じて指導した。 【次年度の方針】 ① 今後も継続して協働体制による研究を進め、授業力の向上を図る。今年度の掲示物を活用して、児童の次時への意欲に繋げられるようにしたい。 ② 様々な方法や観点からの評価により、一人一人の定着度を把握し、個に応じた指導を行う。 ③ <u>引き続き授業中に話し合いの場を設定し、理由などを含めて発表できるよう、発達の段階に応じて指導するとともに、生活面、学習面の両面で、教師が言葉の意味や使い方を問いかけたり、説明したりする場面を多くし、児童の語彙力の拡充に努める。</u>
	A18 児童は、落ち着いて学習に取り組んでいる。 【数値指標】 全体アンケート A15 「児童は、授業中に先生や友達の話をよく聞くなど、落ち着いて学習している。」 →児童の肯定的回答 80%以上	① 学習のきまりについて共通理解し、指導を徹底する。 ・授業開始時や終了時の時刻の遵守・あいさつの励行 ・学習用具の確実な準備 ・授業中の姿勢や話を聞く態度の育成 ・ノートのとり方・発表の仕方の指導・支援	B 【達成状況】 児童の肯定的回答は 89.6%で、目標値を大きく上回った。 ① 「学習のきまり」について共通理解し、基本的な学習態度や技能が定着してきた。ただし、定着の度合いについて個人差が大きい。 【次年度の方針】 ① 今後も、「<u>学習のきまり</u>」を日々の授業における指導に生かし、<u>定着を図るとともに、かがやき教室の活用など一人一人の実態に応じた指導に取り組む。</u>
	A19 児童は、地域でのボランティア活動や行事に参加している。	① 地域行事等の情報を提供するなどして参加を促す。 ② 学校行事における中学生ボランティアとの交流機会を設定するなどし	A 【達成状況】 地域住民の肯定的回答は 66.7%で目標値を大きく下回っている。 ① 学校支援ボランティア等への感謝の気持ちを育てる指導に取り組んだ。

	【数値指標】 全体アンケート A19 「児童は、地域でのボランティア活動や行事に参加している」 →地域住民の肯定的回答 80%以上	て、ボランティア活動への関心を高める。	② 毎月のあいさつ運動や運動会などで、中学生との交流を図っている。 【次年度の方針】 ① 今後は、自治会等から地域行事の情報取得に努め、学校だよりなどで児童及び保護者に情報提供していく。
本校の特色・課題等	B1 心の教育を中心にすえた学習指導と特別活動を推進している。 【数値指標】 全体アンケート B1「わたしにはよいところがあると思う。」 →児童の肯定的回答 80%以上	① 学習指導や特別活動をととして、自己肯定感を高める取り組みを継続して行う。また、体験活動の内容・方法等を検討し、児童のよさを積極的に評価する。	B 【達成状況】 児童の肯定的回答は 90.0%で、目標値を大きく上回った。 ① 児童の活動の内容や方法の工夫により、主体的に活動している児童が増えた。 【次年度の方針】 今後も、児童の活動の内容や方法の工夫を継続し、児童のよさを積極的に評価して、実践につなげる。
	B2 異年齢の児童と触れ合い、体験する機会を作る。 【数値指標】 全体アンケート B2「私は、縦割り班活動が楽しかった。」(1～4年)「私は縦割り班活動で仲良く活動したり、下学年の面倒をみたりすることができた」(5, 6年) →児童の肯定的回答 85%以上	① 縦割り班活動を年間計画に位置付けるとともに、発達の段階に応じた役割遂行を通して、達成感を味わったり責任の自覚を高めたりできるよう支援する。 (児童会活動・学校行事・清掃活動・地域学校園クリーン活動・給食など) ② 教科等における異年齢児童との活動の機会を積極的に取り入れ、学級・学年を越えた児童のかかわりが深まるような活動を充実させる。	B 【達成状況】 児童の肯定的回答は 95.5%で、目標値を大きく上回った。 ① なかよし班活動時には、振り返りの時間を設定して感想を共有することにより、活動の充実感を得ることができた。 【次年度の方針】 ① さらに、学級・学年を越えた児童の関わりが深まるような活動を充実させため、運動会や各種行事でのなかよし班の活用を図る。
	B3 ギネス活動を通して、児童の自主的な態度や協調性を育てる。 【数値指標】 全体アンケート B3「ギネス活動で、積極的に活動できた。」(1～4年)「ギネス活動で責任をもって自分の係の仕事を行うことができた。」(5・6年) →児童の肯定的な回答 85%以上	① ギネス活動を充実させ、学校の活性化を図る。児童会活動として企画運営し、高学年がリーダーとして活動できるよう指導する。 ・ 全校挑戦ギネス(学級単位) ・ フリーで挑戦ギネス(個人)	B 【達成状況】 児童の肯定的回答は 95.2%で、目標値を大きく上回った。 ① 児童はギネス活動を楽しみにしており、意欲的に活動していた。今後も課題について協議・検討し、計画的に改善していく必要がある。 【次年度の方針】 ① 両ギネスの内容や特性に応じて、個人や学級の目標が達成できるよう工夫する。また、成果と課題を整理し、本校の特色ある活動として継続するために、活動内容や実施時期を検討し、改善を図る。
	B4 読書活動を推進し、豊かな心を育てる。 【数値指標】 全体アンケート B4「教職員は、読書の質の向上を目標に、読書活動に取り組んでいる。」 →教職員の肯定的回答 90%以上	① 読書活動を推進する。 ・ <u>読書の記録</u> ・ <u>図書だよりの発行</u> ・ 読み聞かせの実施 ・ 学級文庫の設置の工夫 ・ 「おススメの本」の紹介の励行 ・ 夏休みの親子読書の奨励 ・ 夏休み中の図書室開放 ・ 読書イベントの実施 等	B 【達成状況】 教職員の肯定的回答は 90.9%で、目標値を上回った。 ① 読書に関連する活動やイベント等を行ったことで、児童の意欲・関心を高めることができた。図書館司書による読み聞かせや図書だよりの充実など、様々な手立てが有効に働き、児童の読書活動の質的な改善が図れた。 【次年度の方針】 ① 様々な読書活動の目的・効果について検証し、望ましい読書習慣や意欲向上、更なる読書の質的な向上につながるよう、工夫改善を図る。

〔総合的な評価〕

※「小中一貫教育・地域学校園」に関する方針・重点目標・取組にかかわる内容は、文頭に○印または該当箇所に下線を付ける。

【全体的な傾向】

全体アンケートの9割を超える質問において、肯定的回答割合が増加または市平均値より高い状況にある。また、学校評価書に設定した評価項目23のうち、21項目で評価指標の目標値を達成している。なお、未達成の評価項目は、A10「業務削減」とA19「児童の地域活動参加」の2項目である。

【学校運営の状況（評価項目：A1～12）】

○A2「教職員の熱心な指導」やA4「教職員の分かりやすい授業」、A8「家庭・地域等との連携」については、肯定的回答割合が高く、増加の状況となっている。次年度は、教員相互の授業参観に加え、市教育委員会の訪問指導等の機会を活用し、引き続き基礎的な知識の習得に加え、本校の研究課題「言語力の育成」等に資する取組を推進する。さらに、A5「教職員のいじめ対策」については、今回初めて保護者の肯定的回答割合が数値指標（保護者75%）を達成するとともに3か年連続して向上している。今後とも未然防止・早期解決への組織的な対応や各種たよりを通して学校の方針や取組情報の提供に取り組む。

○A7「積極的な情報発信」とA10「小中連携」については、保護者の肯定的回答割合の減少が大きい。自由記述の記載内容では、河内中学校と連携した活動の情報提供は十分だが、古里中学校の情報が不足しているとのことであった。本校は河内中学校との連携が市から指定され共に活動しているが、今後は古里中学校の各種情報も可能な範囲で提供できるよう努めていく。また、今年度新規に設定されたA11「学校スタッフ活用による業務縮減」については、評価指標（教職員80%）を下回っていることから、さらに課題を検証し、同僚性が発揮されやすい職場環境づくりに努め、業務の縮減を図る。

【教育活動の状況（評価項目：A13～19）】

○あいさつや運動、学習に関するA13～18の評価項目については、肯定的回答割合が増加または市平均値より高い状況にあり、日常的な指導に加え、毎朝のあいさつ運動や持久走大会及び縄跳び検定に向けた昼休みの練習設定、児童の苦手意識を減らす給食献立などの取組の成果が表れつつある。今後とも、家庭・地域と連携して日常的な指導及び各取組の充実を図る。

・一方、今年度新規に設定されたA19「児童の地域行事参加」については、数値指標（地域80%）を大きく下回っている。今後は、地域行事の情報を各種たよりなどで周知し、参加を促す。

【本校の特色・課題等（評価項目：B1～4）】

・本校の特色であるB2「縦割り班活動」やB3「ギネス活動」は、教育活動として定着しており、9割以上の児童が積極的に活動できたと回答している。ギネス活動の成果と課題を整理し、本校の特色ある活動として継続するために改善を図る。

・一方、B4「読書活動」は、保護者の肯定的回答の割合は、昨年度より増加しているが68.4%と低い。今後とも、家庭でも読書をする時間を設けるなど児童が本に親しむ働きかけを促すと同時に、図書室の蔵書充実に加え、学級文庫の蔵書充実を図る。

6 学校関係者評価

【児童のあいさつについて】

・登下校時にあいさつする児童が増えており、あいさつ運動が浸透している。今後も継続してほしい。

【児童の地域行事への参加について】

・廃品回収や河内地区体育祭への参加、神社例祭協力、夏祭り、花火大会などの地区行事を行っており、自治会ごとに児童の参加状況は異なっている。また、スポーツ少年団に加入している児童は、地区行事と練習・大会が重なり参加できない。自治会としては、新規加入と卒業後の継続加入を促していくとともに、学校にも情報を提供していきたい。

【児童虐待防止について】

・地域協議会としてできることはないか検討していきたいので、何かあれば学校から協力を依頼してほしい。

【教員の業務縮減】

・教員は多忙である。業務縮減は大きな課題であるが、まずは学校で縮減を図るとよい。

7 まとめと次年度へ向けて（学校関係者評価を受けて）

※「小中一貫教育・地域学校園」に関する方針・重点目標・取組にかかわる内容は、文頭に○印または該当箇所に下線を付ける。

【学校運営・特色ある学校づくり】

- ①○よりよい教育課程となるよう日課や行事の見直しを行い、今後も適切に実施されるように努めていく。また、学校園での小中一貫教育の取り組みについて、連携実践を焦点化させる。
- ②○今後も、各種たよりやホームページ、学校公開による情報発信を継続し、家庭や地域との連携を充実させる。
・学校、家庭、地域が連携協力した取組 ・小中一貫教育の取組 ・地域行事等の情報
- ③ 岡本小地域協議会を核として、街の先生や学校支援ボランティア等の協力による教育活動支援の円滑な実施に努め、地域とともにある学校づくりを推進する。
- ④ 教職員の専門性を活かしながら効率的に業務を遂行するため、さらに課題を検証し、同僚性が発揮されやすい職場環境づくりに努める。
- ⑤ ギネス活動の成果と課題を整理し、本校の特色ある活動として継続するために、活動内容や実施期間を検討し、改善を図る。

【学習指導】

- ①○今後とも、授業中に話合いの場を設定し理由などを含めて発表できるよう、発達の段階に応じて指導するとともに、授業以外でも、教師が言葉の意味や使い方を問いかけたり、説明したりするなどして、児童の言語力を育成する。
- ②○単元や単位時間のねらいにそった「わかる授業」を展開するため、教材や授業に関する情報の共有、意見交換を密にし、教材研究や授業準備をさらに効率的・効果的に行う。また、今後も協働体制による研究を進め、授業力の向上を図る。
- ③○宿題や自主学習等の家庭学習に関する指導及び啓発を行い、家庭と連携して家庭学習の習慣化を図る。
- ④ 少人数指導や習熟度別学習、T.Tによる指導を適宜取り入れるなど、学習形態を工夫する。
- ⑤ 読書活動の目的・効果について検証し、望ましい読書習慣や意欲向上、さらなる読書の質的な向上につながるよう工夫・改善を図る。

【児童生徒指導】

- ①○基本的な生活習慣を含め児童指導の方針・基準を明確にし、今後とも全教職員共通理解のもと機会を見逃さず指導する。また、定期的に情報交換を行い、児童の様子や指導状況について確認し、対応が必要なケースについては協議し策を講じる。
- ②○きまりやルールを守る意識や思いやりの心を育てることを重視した規範意識を高める指導とともに言語環境の整備などに取り組む。また、学級・学年を越えた児童の関わりが深まる運動会や各種行事でのなかよし班の活用、学級活動や道徳の時間も活用して、児童のよさを認め励ましながら、自己有用感や心のたくましさの涵養に努めを図る。
- ③ いじめに関するアンケートと教育相談を学期ごとに実施し、実態把握と未然防止に努める。さらに、児童が主体となっていじめについて考え、学校全体で取り組む活動や機会を工夫する。また、保護者と連携するために、いじめを防止するための取り組みや指導内容について情報を提供する。
- ④○あいさつ運動や学活・道徳での指導の充実を図り、さらなる定着を目指していく。また、あいさつの日常化を図るため、家庭や地域と連携したあいさつ運動の展開について、PTAや地域協議会と検討していく。
- ⑤ 言葉遣いは、機会を逃さず同歩調で指導するとともに、正しい言葉遣いを授業等においても具体的に教え、日常化するまで根気強い指導を継続する。
・職員室への入り方 ・あいさつ、返事 ・敬語の使い方 ・授業中の話し方 ・児童同士の言葉遣いなど

【健康（体力・保健・食・安全）】

- ① 業間や昼休みの外遊びを推奨するとともに、持久走や縄跳びなどの検定カードを活用し、目標をもちながら運動する機会を設け、内容の充実を図る。
- ②○元気っ子健康体力チェックやミニマムを活用し、児童の実態に合った補助・補強運動を取り入れた授業を展開する。
- ③ 「嫌いだけど一口食べてみよう」を合言葉にしたスモールステップでの指導を心がけ、一人一人の状況に応じた食育指導を継続する。
- ④○家庭で健康や栄養バランスを意識した生活が送れるように、各種たよりによる啓発活動を行う。